

南種子町郷土館

年報



【南種子町郷土館】

〒八九一―一三七〇四

鹿児島県熊毛郡南種子町中之下一九三三一

TEL(〇九九七)二六一―一〇三〇

目 次

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設・設備	3
2. 事 業	4
①展 示	4
②展示の概略	5
③企画展	5
④資料収集活動	7
⑤新収蔵資料	7
⑥資料整理	7
3. 教育普及活動	8
①勾玉（竜佩）づくり体験教室（長谷小学校）	8
②貝のアクセサリーづくり体験教室（蒲生小学校（鹿児島）	8
③勾玉づくり体験教室（荃南小学校）	8
④みなみたね古代探検隊「広田人になって貝輪を作ろう！」	9
⑤みなみたね古代探検隊「ジュズダマをさがす・みる・つくる！」	9
4. 入館者数	10
5. 郷土館の組織	11
6. 研究論文	12
矢止石考＝矢止石は実在したのか、諸資料表記の変遷	12
南種子町文化財保護審議委員 平野性賢	

南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：旧ユースホステルの1室を使用し、「南種子町立南島民俗博物館」
として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して
開館
- 平成21年 4月30日：館内の広田遺跡展示室改修工事

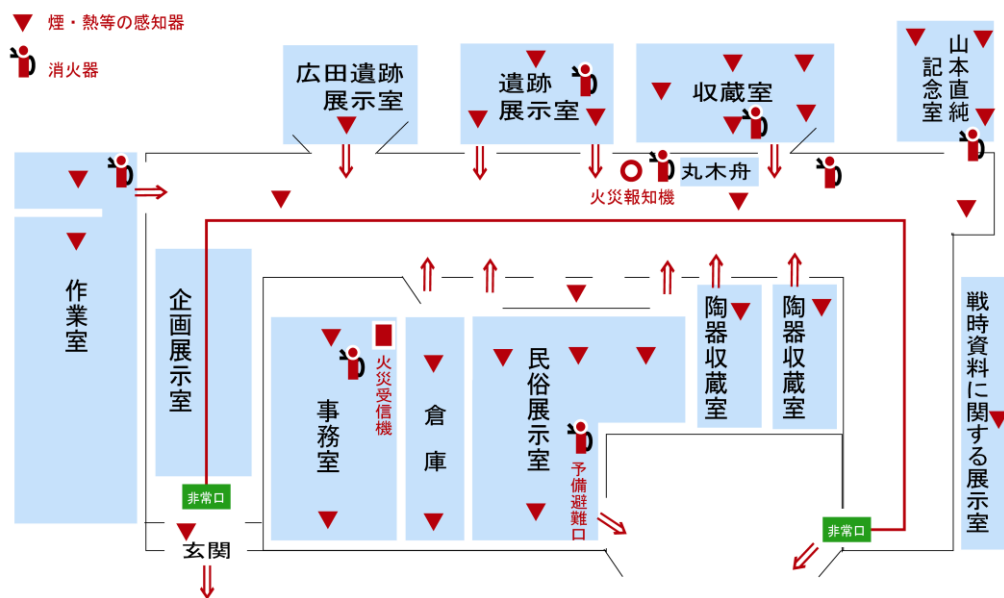
館日誌

- H22. 4. 宝満神社赤米お田植祭
4. 20 ミニ企画展「身近な環境問題を考えよう！」を開催（7. 11まで）
7. 17 博物館クイズラリー開催（8. 31まで）
7. 17 勾玉・昔の遊び道具づくり教室開催（9・30まで）
7. 24 第 回古代探検隊学習講座
ベンケイガイをつかった貝輪づくり体験教室（講師：忍澤成視氏）
8. 8 山本直純氏の長男「山本純ノ介」氏のご家族が来館。山本直純記念室をご観覧。
10. 15 町立長谷小学校「勾玉（竜佩）づくり」体験学習で来館。
10. 20 鹿児島島の蒲生小学校、修学旅行で来館。「貝のアクセサリー」づくりを体験。
11. 2 町ふるさと祭で、企画展「西之田代の旧水力発電所」を開催
～3
12. 2 町立平山小学校4年生見学（社会科授業）
12. 3 町立荃南小学校3～4年生見学（社会科授業）と「勾玉づくり」体験学習で来館。
12. 4 企画展「西之田代の旧水力発電所」を郷土館で引き続き開催
- H23. 1. 22 第7回古代探検隊学習講座
ジュズダマについての講座とジュズダマのアクセサリーづくり
（講師：落合雪野氏・田渕川サナエ氏）
1. 26 文化財保護審議委員会及び郷土館管理委員会
1. 26 郷土館火災避難訓練
3. 4 町立長谷小学校3～4年生見学（社会科授業）
3. 6 下中八幡神社「お田植祭」

1. 施設・防火設備及び避難経路

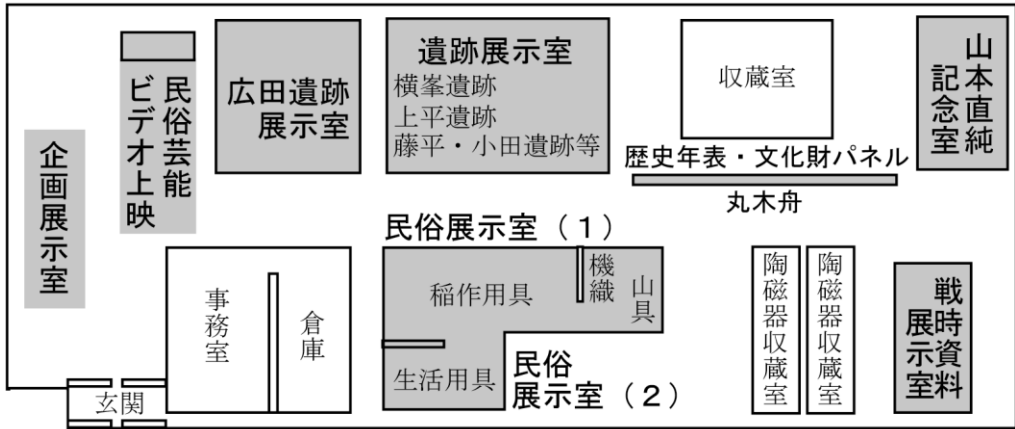


■ 郷土館の防火設備及び避難経路



2. 事業

①展示



入口



広田遺跡展示室



民俗資料展示室



南西諸島現役最後の丸木舟



戦時資料展示室



山本直純記念室



企画展示室

②展示の概略

■丸木舟と漁具展示

企画展示室確保のため、丸木舟と漁具を廊下へ移動。丸木舟は通常のものと同西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏所有）を隣接し、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいとのねらいもあります。（比較展示）

■広田遺跡展示室

昨年、広田遺跡展示室をリニューアルし、火災から資料を守るため、ドアを防火扉にしました。平成17～18年に発掘した出土品の中から厳選して、展示を行っています。

■遺跡展示室

広田遺跡以外の遺跡関係を展示。現在は横峯遺跡、上平遺跡、藤平・小田遺跡を中心に展示しています。（新たな遺跡が発掘されたい、展示を入れ替えていく予定です。）

■民俗展示室

稲作に関する農具と住まいに関する生活用具を中心に展示。残りのスペースや壁面を利用して機織機、山の道具、桶づくりの道具（タンコ道具）なども展示しています。

■山本直純記念室

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品の展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。

■戦時資料展示室

町出身の「日高保清」大尉の軍服・勲章・遺書などの遺品を中心に展示しています。

③企画展

■ミニ企画展「身近な環境問題を考えよう！」（4月20日～7月11日）



郷土館の駐車場の一部が資源ゴミ収集の拠点地になったことをきっかけに、町の身近なゴミ問題や漂流ゴミが海ガメに与える環境問題などについて考えよう！というミニ企画展を開催し

ました。海流による漂着ゴミの経路を示したパネルや実際に町内の海岸で収集した漂着ゴミの展示も行いました。また島内在住の写真家「久米満晴」氏が撮影した海ガメと漂着ゴミの写真や「ゴミ箱になった海（JEAN）」のビデオ上映をし、生態への影響を提示しました。また、町の保健衛生課に依頼して、町内における資源ゴミの分別法の展示コーナーも設置し、身近な環境問題を考える糸口としました。

◎夏休み特別企画「博物館クイズラリー開催」(7月19日～8月31日)



今年は昨年の「博物館スタンプラリー」改め、「博物館クイズラリー」とし、各館それぞれ1問ずつのクイズを出して、それに答えてもらうといった形式で行いました。また企画に参加する博物館も前回の3館から新たに3館増えて6館で開催しました。

結果、本町で全館全て完走された方は17名でした。

(参考：中種子町24名・西之表市20名でした。)

＝クイズラリー参加博物館＝

- * 南種子町：南種子町郷土館・たねがしま赤米館
- * 中種子町：中種子町立歴史民俗資料館・古市家住宅
- * 西之表市：種子島開発総合センター（鉄砲館）・赤尾木城文化伝承館（月窓亭）

◎勾玉（竜佩）づくり&昔の子供のあそび道具づくり体験教室開催

夏休み期間中の体験教室として、昨年好評だった勾玉（竜佩）づくりに加え、割ばし鉄砲やブンブンゴマ・紙ゴマなどの昔の子供のあそび道具づくりも行いました。



勾玉・竜佩づくり



紙ゴマづくり



割ばし鉄砲づくり



ブンブンゴマづくり

■わが町に初めて電気をもたらした「田代水力発電所」（11月2～3日）



町のふるさと祭「展示発表会場」において企画展を開催。今回は、町内で初めて電灯（60灯）を灯した西之「田代集落」の旧水力発電所についての企画展を行いました。現存する資料や写真もなく、地元の「鮫島康信」氏からの聞き取り調査だけで資料づくりを行いました。内容は、発電所のあった場所や発電のしくみ、さらに発電所ができるまでの経緯などをまとめて手作りのパネルを作成し、展示をしました。その後は、郷土館のエントランスで引き続き開催。

④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。

⑤新収蔵資料（平成22年度）

提供者	住 所	資料名（個数）
関田道三郎	下 中	米軍からもらった水筒（1）
山田 辰男	平 山	唐箕（1）・田押車（1）
小園 重實	上 中	羽釜の瓦製フタ（1）・羽釜（1）・チキリの棹（2） チキリの分銅（1）
岩坪 徹	上 中	提げ重箱（1）
高田正一	下 中	鰐口（1）
向井スズ子	平 山	犁（2）・カルチペータ（1）
西田 厚	平 山	犁（2）・馬耕鞍（2）・モンガ（1）・田植縄（2） カリーコ（1）・桶（1）・ほた廻し（1） ナガラメ獲り用のクシ（1）

*網かけがされている物は、寄託品です。

⑥資料整理

昨年に続き、収蔵室の資料を整理中。

収蔵資料カード（目録）については、1枚1枚写真を撮影しながらの資料整理ということで、だいぶ時間が掛かりますが、少しずつ整理していきたいと思えます。

3. 教育普及活動

①勾玉（竜佩）体験教室（長谷小学校）

平成22年10月15日、長谷小学校の体験学習で、勾玉（竜佩）づくり体験教室を行いました。昨年は、昔の子供の遊び道具づくりを行いました。今回は、勾玉づくりをしたいとの要望があり、実施いたしました。



②貝のアクセサリーづくり体験教室（蒲生小学校（鹿児島））

平成22年10月20日、種子島に修学旅行で来られた鹿児島の蒲生小学校の皆さんに、貝のアクセサリーづくりの体験教室を行いました。

貝殻は、島での思い出として、子供たちが種子島の海岸で集めた貝殻を使用しました。



③勾玉づくり体験教室（荃南小学校）

平成22年12月2日、荃南小学校の体験学習で、勾玉づくり教室を行いました。ほとんどの人が初めての勾玉づくりで、削り方にとっても苦戦していましたが、最後には「自分だけのアクセサリーが完成して、うれしかった」と感想を述べてくれました。



④みなみたね古代探検隊「広田人になって貝輪を作ろう！」(7月24日)



忍澤成視 先生



貝輪づくりの様子

7月24日、みなみたね古代探検隊の体験学習講座で、貝輪づくりを開催しました。貝輪は貝でつくられた腕輪で、広田遺跡からもゴホウラやオオツタノハといった貝でつくられた貝輪がたくさん発見されていますが、

今回は、講師に千葉県から忍澤成視先生を迎え、加工しやすいバンケイガイを使って、貝輪づくりに挑戦しました。自分の腕に入るように、慎重に形を整えながらつくっていました。最後に、根気よくサンドペーパー（目の細かい1000番ぐらいのもの）で表面を磨いていくと、艶が出てとてもきれいになりました。

⑤みなみたね古代探検隊「ジュズダマをさがす・みる・つくる！」(1月22日)

平成23年1月22日、みなみたね古代探検隊の体験学習講座で、講師に鹿児島大学総合研究博物館准教授の落合雪野先生と種子島自然観察同好会の田淵川サナエ先生を迎え、ジュズダマを使ったアクセサリーづくりを開催しました。アクセサリーづくりは、材料のジュズダマを取りに行くことから始め、その後、落合先生によるジュズダマについての学習会を行って、制作に入りました。

ジュズダマの色を交互に違えてこだわる人、同じ大きさのものを探してつないでいく人、たくさんつないで長いものをつくる人など、思い思いのアクセサリーをつくっていました。



落合先生による学習会の様子



アクセサリーづくりの様子

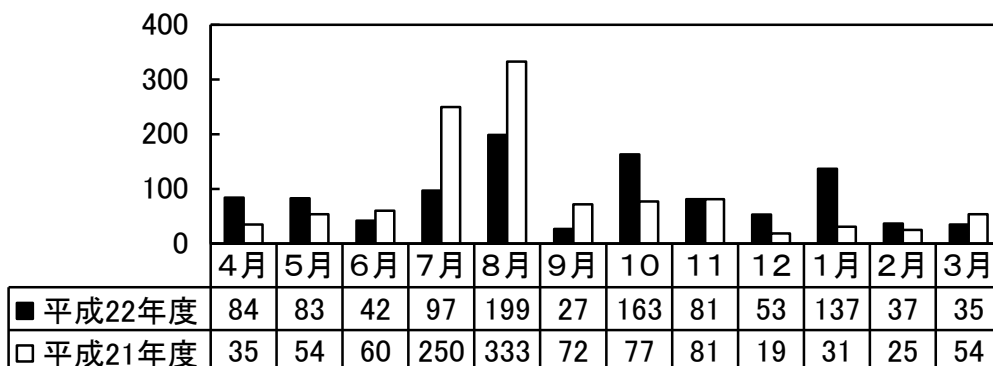
4. 入館者数

平成22年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

分類	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	町外
4月	16	1	0	1	66	84	57	27
5月	6	0	0	1	76	83	25	58
6月	13	0	0	1	28	42	20	22
7月	45	4	0	0	48	97	46	51
8月	92	11	1	4	91	199	86	113
9月	0	0	0	2	25	27	7	20
10月	96	1	0	0	66	163	74	89
11月	46	0	7	0	28	81	57	24
12月	24	0	0	0	29	53	37	16
1月	30	0	0	0	107	137	88	49
2月	9	5	0	1	22	37	19	18
3月	13	0	0	0	22	35	21	14
計	390	22	8	10	608	1038	537	501

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

- 館長 岩屋秀男（教育長）
- 次長 野首知子（社会教育課長）
- 文化係 濱田広文（社会教育課長補佐）
石堂和博
小脇有希乃
- 管理員 豊島 巧
- 管理員（補） 平島典男
- 管理委員会委員長 羽生源志（文化財保護審議会委員長）
- 管理委員会副委員長 長田泰生（文化財保護審議会副委員長）
- 管理委員会委員 平野性賢（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 岩坪陸男（文化財保護審議会委員）
- 管理委員会委員 鮫島正孝（文化財保護審議会委員）

6. 研究論文

「矢止石」考

＝矢止石は実在したのか、諸資料表記の変遷＝

南種子町文化財保護審議委員 平野性賢

矢止石について、資料に基づいて一つの仮説を提起する。

矢止石は本当に矢を止めた石であったのか。本来、矢止石とされる遺跡は実在したのか、と。

矢止石に隣接する昭和五十二年建立の「矢止石由来」石碑の碑文は次のようになっている。

弘法殉難の日典上人の遺業を継ぐために来島せられし法弟日良上人は忍難弘通の上領主時氏公以下全島民を法華宗に改宗せしめた。

然るに邑主坂井左京之進は律宗に確執し 日良上人に敵意を懐き文明年頃遠矢を以って上人を射殺せんとせしむも夥しき遠矢悉く巨石に當りて一矢も上人に當らず遂に上人の法力心服して一族挙げて法華宗に信順す。

茲に上人の行徳を顕彰し浄光寺門前の此地に「矢止石」と称して 之を現存す 希世の遺蹟にして法華宗徒これを仰慕して止まず 依ってその由来を叙し以って後人に告げる

昭和五十二年四月二十一日

撰之

他方、ほぼ二百年前の書かれた種子島家の羽生六郎左衛門道潔による「種子島家年中行事」には次のような記述がみられる。

(前略)

浄光寺是也 日良の院号を以寺号とし 寺格も重く五ヶ寺の列につらね 本源寺の隠居地と究め 今に其□たり 日良法印の徳功にて改宗たりといへども 元來律宗一致の地たりしかバ 間^ニハ□ありて 心腹せざる族もありしとかや 坂井村へ引越隠居の□取立ての頃 坂井村の主宰坂井左衛門祐深く日良法印を憎^ミ 敵の如くおもひたれども 御上の御取持至て厚ければ 打殺して敵対する事成難く 今の日良法印の廟所守り庵の辺へ其頃に浄福寺という律宗寺ありとかや 此所より日良法印

印御隠居所作事半に 日良の方へ向ひ 彼の左衛門祐 遠矢を射かくる事夥敷候処
日良へ 更に中らずして下^ノの横馬場作事所の材木に中る矢蓑毛の如くなりしが^ハ
集り居たる大工共驚き騒ぐにぞ 日良法印大工共を宥て云く 必以騒ぎ驚くまじ
法印が口る事ぞとて真の法服を着し 下^ノの横馬場通道へ走下り 独立して左衛門祐
が射掛る千筋の矢に向ひ 矢違秘密の法術を修行し給ふや 飛来る矢散じておれて
はたと地に落^ス 右往左往に散乱す 左衛門祐 日良法印を調伏せんとおもひ立たる
念力も 法印の奇怪なる妙術に恐縮し 忽弓矢を投捨て一門郎等共^ニに日良のもと
に走集り 膝下に平伏して降参しけるとぞ 日良法印矢違の秘術修行せりし立所の
しるし也とて 横馬場の道の側に一つの大石あり 此石を行塚という 此弧石には
通路の人の不浄を禁じ敬む事候
古へより今に至り 里人老若なべて知らざるハなし
(後略)

種子島の法華宗への改宗は約五百年余り前であり、種子島家年中行事が書かれたのは、
ほぼ二百年前の江戸時代後期である。時代は経ているが、当時の状況を生き生きと描写し
た種子島家の古文書である。

ここでは矢を止めた石についての言及がない。矢を止めた石は無かったが、近くに大石
があった。それを矢違いの秘術を修行したしるしとしての行塚としたとある。

最も古い記録文書の一つである種子島家年中行事によれば、矢を止めた石は無かったの
だ。矢を止めたのではなく、矢があたったのは横馬場作事所の木材である。したがって、
「矢止石」ではなく、「行塚」とするべきではないのか。ところが近年の諸資料の表記はす
べてが矢止石として定着した。

なぜ今日までの長期にわたり、明確な古文書の存在が顧みられることがなかったのであ
ろうか。まことに不思議なことである。

納得し難いことは他にもある。種子島家年中行事では、坂井村の主宰坂井左衛門祐とあ
るが、他の諸資料は坂井左京之進、日高左京之進となっている。当事者の名前に異説があ
ることとなる。

同じように種子島家年中行事では、坂井村の律宗寺院の寺号は浄福寺とあるが、他の資
料には出てこない。中種子町文化財資料(歴史民俗資料館)には「左京之進は地頭であり、
坂井村正法寺の住職を兼務していた」とあり、坂井の里歴史公園・案内文では正坊寺とな
っている。正法寺と正坊寺は音が同じであるが、浄福寺とは異なる。

また坂井左衛門祐が「敵の如くおもひたれども 御上の御取持至て厚ければバ 打殺し

て敵対する事成難く」とあるのは、「矢止石由来」石碑文中の「遠矢を以って上人を射殺せんとせし」ではなく、当初から威嚇のための遠矢であったと推測する根拠として十分ではないだろうか。威嚇目的であったとすれば矢があたらないのは当然で、種子島年中行事の「木材に中る矢蓑毛の如くなりしか」もあり得ることと思われる。さすれば矢違いの秘術についても判断がわかれよう。

矢止石は本当に矢を止めた石であったのか、実在したのか。古文書からは疑義が発せられている。

下記に、私の周辺にあった諸資料の表記について一覧としてまとめてみた。そのほとんどが1960年代以降の新しい出版物である。郷土史関係者の中で、最も古い証書類である種子島家年中行事が矢止石の関連文献として除外されていたとするならば、きわめて残念なことと申し上げなければならない。

資 料	製作年	著者・編者	石の表記	坂井村の主宰	律宗寺院
種子島家年中行事	1818	羽生六郎左衛門道潔	行 塚	坂井左衛門祐	浄福寺
種子島碑文集（第一集）	1965	下野敏見	矢止石	坂井左京之進	
タネガシマ風物誌	1969	下野敏見	矢止石	坂井左京之進	（峯ノ寺）
中種子町郷土史	1970	中種子町	矢止石	坂井左京之進	
中種子町文化財資料	1987	歴史民俗資料館	矢止石	坂井左京之進	正法寺
坂井の里歴史公園案内文			矢止石	日高左京之進	正坊寺

* 制作年については、西暦及び年号表記を、西暦に統一して表示した。